

1 梨の生育状況について

4月10、11日の降霜・低温による結実不良やサビ果、4月18日の降雪による傷果が産地全域で多数発生、果実肥大は緩慢で、結実はやや悪い～著しく悪い状況です。また、霜害を受けた樹では、新梢伸長が緩慢で、葉色も薄い状態です。

2 摘果作業について 【着果量の確保を最優先としてください】

結実量が不十分な場合は、通常は摘果するような果実（孫花、無着葉果、変形果、傷果等）も残す、1果そう当たり2果着果させる等、可能な限り残し、着果量を確保してください。

結実量が十分な場合でも、サビ果や雹の傷果などの発生が多いことから、慎重に作業を進めてください。

なお、2果着果させた場合、ハマキムシ類の被害を避けるため、収穫までに1果にしてください。

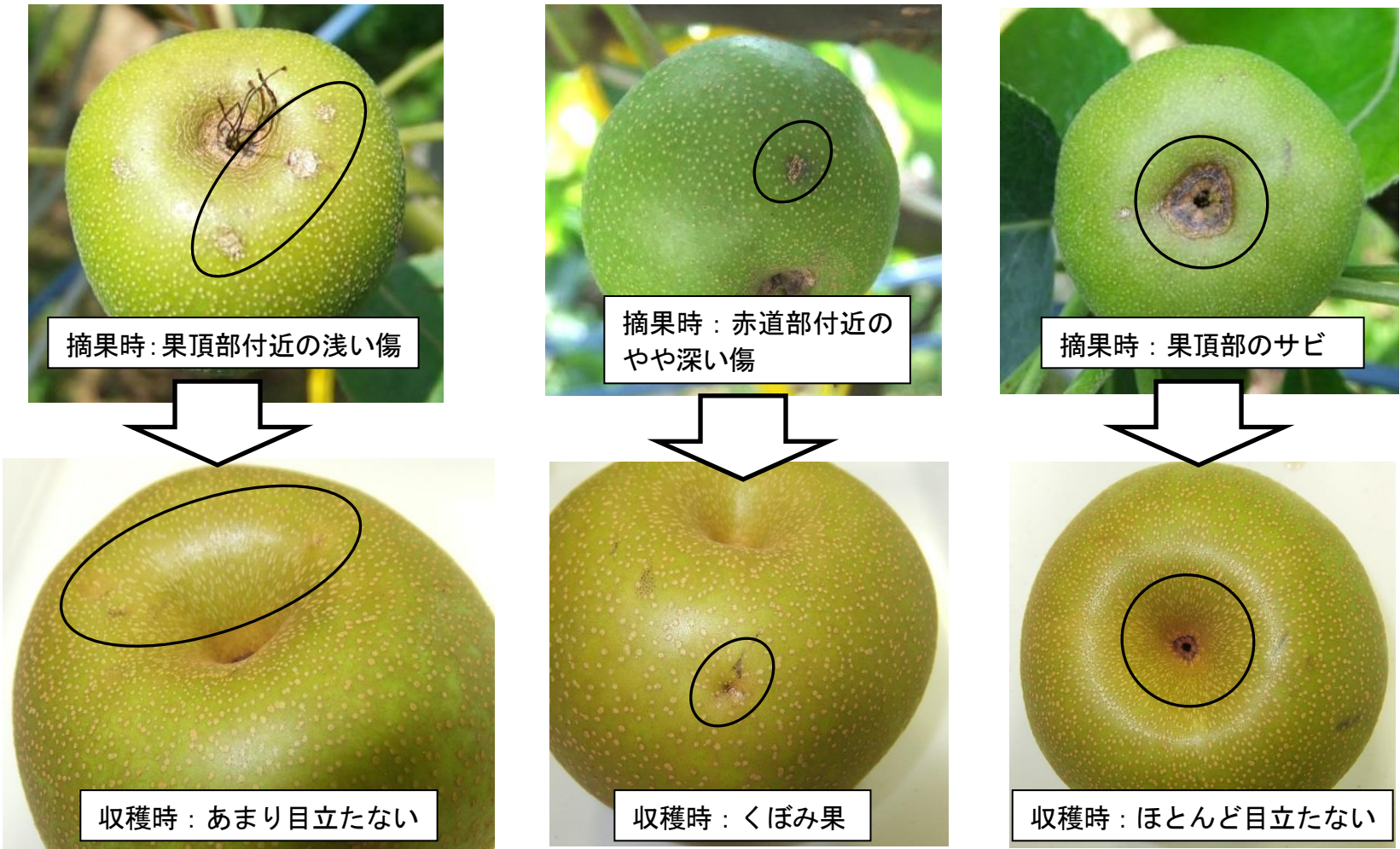
仕上げ摘果作業は満開60日後（6月10日頃）を終了の目安としますが、結実量が少ないことから、形や大きさ、傷の有無など、より状態の良い果実を確保するため、慎重に作業を進めてください。

なお、萎縮病被害枝については全摘果して樹勢回復に努めて下さい。

仕上げ摘果時の着果量(目安)

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり(100～120cm)	1樹当たりの着果量(3間植の場合)
幸水	10～11果	5～6個	290～320果／樹
豊水	11～12果	6～7個	320～350果／樹
あきづき	11～12果	6～7個	320～350果／樹
新高	9～10果	4～5個	260～290果／樹

【参考:あられや霜による被害果の仕上げ摘果頃と収穫時の傷の変化】



3 新梢管理(摘心)について 【着果量の少ない枝・樹の過繁茂を防いでください】

霜害を受けた樹では、新梢伸長が緩慢、葉色が薄い状態ですが、結実量が少ないことから、今後、過繁茂となることが想定されるため、以下の管理に努めてください。

- ①予備枝は、先端の新梢1本を残して摘心して一本化を図り、来年の長果枝として育成する。
 - ②側枝は、中央～基部に発生した新梢を中心に摘心（15～20 cm程度伸びた頃）を行い、果実肥大の促進や、来年の短果枝の育成を図る。
 - ③短果枝群など、葉が混み合っている場所は芽かきを行い、薬剤のとおりを良くする。
- ※ただし、新梢の伸びが悪い、葉が小さいなど、弱っている樹や古い側枝の摘心は控え、樹勢低下を助長させないように注意下してください。

4 黒星病の発生状況について

黒星病芽基部病斑の発生や、落葉からの子のう胞子の飛散量は少ないものの、5月上旬頃から果実や葉の軸などに黒星病の発生が見られ始めています。また、向こう1か月は降水量が多いと予報されており、今後、黒星病の感染が広がりやすい条件になると考えられます。発生が多い場合は、殺菌剤の追加散布をしてください。

☆重要☆：

- 今後、現在発病している果実や葉が黒星病の感染源となり、これらを放置すると降雨のたびに感染が広がる恐れがありますので、見つけ次第、速やかに除去し園地外で適切に処分してください。特に落葉処理が不十分であった園地周辺では十分注意してください。
- 7月初旬から再び「幸水」の果実に感染しやすい時期となります。
- 7月の発病を抑えるためには、6月末までにしっかり罹病果実、葉を取りきることが極めて重要です！！

5 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散布月日	薬剤名と濃度	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
9	5月27～29日	オキシラン水和剤 600倍 アプロードフロアブル 1,000倍	300 ^{リットル}	黒星病、輪紋病 カイガラムシ類幼虫	
10	6月6～8日	キャプレート水和剤 600倍 スプラサイド水和剤 1,500倍	300 ^{リットル}	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、アブラムシ類 カメムシ類、カイガラムシ類	
11	6月16～18日	オキシラン水和剤 600倍 サムコルフロアブル 10 5,000倍	300 ^{リットル}	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、ケムシ類	
12	6月21～23日	ダニゲッターフロアブル 2,000倍	400 ^{リットル}	ハダニ類、ニセナシサビダニ	
●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、散布前には必ず草刈りを実施しましょう					
13	6月26～28日	ストロビードライフロアブル 3,000倍 オーソサイド水和剤 80 1,000倍	300 ^{リットル}	黒星病、輪紋病 黒斑病、うどんこ病	

☆防除開始時間は午前5時以降としてください(午前4時台にSSのファンを回さないでください)。

- ① 黒星病の発生が多い園地では、【9回目】と【10回目】の間に「ユニックス顆粒水和剤 47 (2,000倍)」を単剤で散布してください。
- ② 【11回目】と【12回目】、【12回目】と【13回目】は5日間隔となります。
- ③ 【12回目】のダニゲッターフロアブルは「遅効性」のためハダニ類の密度が高まる前に散布してください。(ハダニ類の発生が早い場合は、「アカリタッチ乳剤 (2,000倍)」を散布し、密度低下を図ってからダニゲッターフロアブルを使用してください。)
- ④ 散布に当たっては、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。また、周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。
- ⑤ 防除間隔は、10日以上空かないように注意してください。

6 害虫対策について

●ナシヒメシンクイの耕種的防除対策

梨園に隣接するウメ、モモの新梢先端が折れて萎れている「芯折れ」(右図)が見られる場合には、これを切り取って処分してください。

●カイガラムシ類の防除対策

9回目の「アプロードフロアブル」、10回目の「スプラサイド水和剤」が対象薬剤となります。薬剤のかかりにくい場所で増殖するので、園地外周部や主枝先端、枝幹部にも十分に薬液がかかるように丁寧に散布するとともに、短果枝群(ショウガ芽)など、薬剤のとおりにくい場所は新梢管理(芽かき、新梢の切除)も実施してください。

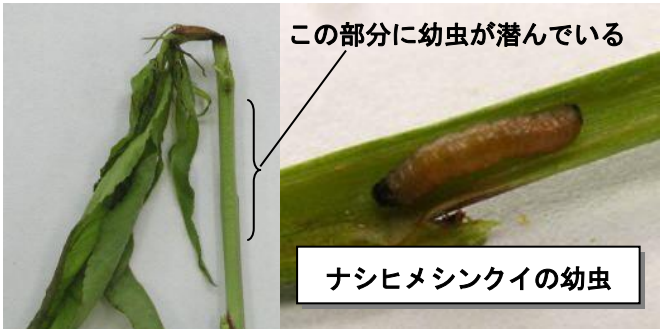


図 もも新梢先端の「芯折れ」